

《被災地の子どもたちの絵と作文展》

3月11日の、あのね。

「ふくしまそうまの子どものえがきたいせつな絵展」

+

「つなみ 被災地の子どもたちの作文集」

主催 全労済ホール／スペース・ゼロ
共催 3.11こども文庫
ふくしま支援・人と文化ネットワーク

ごあいさつ

ふくしま支援・人と文化ネットワーク理事長 神田香織

子ども時代、夏休みには“磐城七浜”で遊び、海の絵を描き、水平線の向こうの国々に思いをはせた…。

福島県いわき出身者が中心となって、昨年10月に発足した「ふくしま支援・人と文化ネットワーク」。これが私たちNPO法人の名称です。「文化」という「潤い」を切り口に、これまで被災地慰問、福島県在住のゲストを招いて現地報告、また子どもたちの保養の家の設置等の活動を始めてまもなく半年が経ちます。

あの大震災から一年、復興のかけ声とは裏腹に収束しない原発事故、困難な未来が待ち受けている子どもたち。「脱原発世界会議」開会式で小学4年の少年の「大切なのは僕たちの命ですか、それともお金ですか」は世界中の大人たちの心に火をつけました。

岩手、宮城、福島の被災地の子どもたちの発言、絵画、作文。彼らが発信する「文化」はきっと悲しみだけではなく、むしろ子ども本来の無邪気さ、パワーが伝わってくる、そんな気がしています。被災地の子どもたちの絵と作文に触れて、どうぞ子どもたちの未来に寄り添って下さい。

《被災地の子どもたちの絵と作文展》

3月11日の、あのね。

「ふくしまそうまの子どもがくたいせつな絵展」

+

「つなみ 被災地の子どもたちの作文集」

3.11東日本大震災から一年が経とうとしています。
被災した子どもたちの体験や気持ちを表現した絵や作文は、
あの日の記憶を風化させないための大切な記録。
子どもたちの絵や作文に込められた思いやメッセージ・・・
心の叫びが聞こえる作品群を一挙公開！

■開催期間 2012年3月18日(日)～29日(木)

■開催場所 全労済ホール／スペース・ゼロ 地下1階

・ギャラリー&多目的ルーム 3月18日～29日

・展示室 拡大展示期間 3月21日～25日

展示時間 11:00～19:00 (最終日は17:00まで)

〒151-0053

東京都渋谷区代々木2-12-10

全労済会館 B1

TEL 03-3375-8741

FAX 03-3370-9140

JR新宿駅南口下車 徒歩5分



企画詳細

ふくしまそうまの子どもへのえがきたいせつな絵展

「3.11東日本大地震で傷ついた子ども達のために、
絵で出来ることを」とはじめた10通のメールに、
日本のみならず、世界中から届いた画材。

被災地相馬市の子ども達と、版画家 蟹江 杏と一緒に描いた、
幼児から高校生までの絵画作品を一挙公開！

■3.11こども文庫について

「東日本大地震の被災地の子ども達に絵本と画材を送ろう」というメールからスタートした「3.11こども文庫」設立プロジェクトは、版画家 蟹江 杏さんと福島県相馬市の教育委員会に勤める佐藤史生先生とが協力して、震災と津波で被災した子どもたちのために、絵本と画材を届けて、この困難を乗り越えてもらう、その手助けのために始まった活動です。

色鉛筆や紙などの画材も個人また企業から提供して頂いて、蟹江 杏さんや多くの画家と共に画材を持って避難所を回り、子どもたちと一緒に大きな紙に絵を描いたり、スケッチブックなどを届けるなど、少しでも子どもたちの心の傍に寄り添うための活動も継続的に行っています。

この活動により、現在集まっている絵本を、一時的なものではなく、被災地復興の一助にとして、相馬市や南相馬市を巡回するバスによる移動子ども文庫、及び子ども文庫が設立されることになりました。

この展覧会を通して、多くの皆様にこの活動を知っていただくとともに、会場で集まった募金は子ども文庫設立のための基金に充てられます。

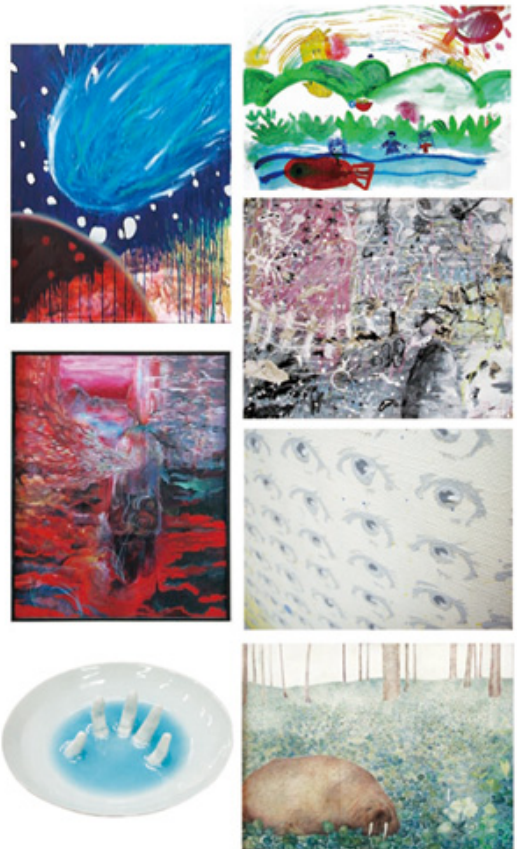
<http://www.facebook.com/ehonnomori>

～被災地からの小さなメッセージ～

相馬市の子どもたちも自分たちの描いた絵が東京で展示されることを楽しみにしています。

この展覧会を通して、被災地の子どもたちも自分たちの絵が東京で展示されることが、これからの生活の目標や励みになること、また、子どもたちにとっても自分たちで描いた絵によって行われる募金から子ども文庫が出来ることにより、自分たちの手で自分たちの新たな街作りに参加することで、復興そのための手助けになると思っています。

出来る限り、被災地の人たちと共に行われる活動となることを目指しています。



蟹江 杏



東京生まれ。自由の森学園卒、ロンドンにて版画を学ぶ。帰国後、活動は多岐にわたり、ポスター広告や、舞台美術、衣装、著書に絵本「夜ごと消えるお姫様」画集「あんずリズム」（アスラン書房）がある。主な個展は、大丸アートギャラリー（東京店、神戸店）、小田急百貨店美術サロン、銀座あかね画廊等で開催。活動は国内にとどまらず、海外での個展（バルセロナ、ニューヨーク）やアートフェアへの参加等、積極的に展開している。ライフワークとして、ゼロプロジェクト「LA・TATAN舎」でのライブペインティングを通じて、各地の子ども達に表現する楽しさを伝えている。

つなみ 被災地の子どもたちの作文展

『つなみ 被災地のこども80人の作文集』より
(企画・取材・構成：森 健、「文藝春秋」刊)

東日本大震災による津波に直面した子供たちが、
地震の瞬間や、津波を目の当たりにした時に
何を感じたのか。

家族や親友を失った悲しみ、避難所の暮らし、
そして今、何を支えにしているのか



東日本大震災で津波の甚大な被害を受けた宮城・岩手の子どもたちが、津波体験を書いた作文を綴った『つなみ 被災地のこども80人の作文集』は、刊行後大きな話題となり、ベストセラーになりました。

下は幼稚園から上は高校生までの80人の作文は、地震と津波に直面した子どもたちの率直な情感が込められています。

子どもたちが見たまま、感じたままを綴った作文集は、3.11のあの日の記憶を風化させないための大切な記録です。

この機会に、子どもたちの作文に触れて、思いを感じてください。

作文展企画・実施団体について

ふくしま支援・人と文化ネットワークは、福島県をはじめすべての人たちに対して、東日本大震災と原発事故後に起こっている被災地の問題を共有するための啓発活動に取り組み、文化を通して人と人を繋げる活動をめざしています。

<http://www.support-fukushima.net/index.html>

■展示予定の主な作文の題名、書いた子どもたちの学年など

- 宮城県名取市、仙台市若林区、東松島市
 - 「つなみは黒くてくさかった」（仙台市若林区 小2）
 - 「地鳴りが『ゴォー』」（名取市 小5）
 - 「ままのくるまが、ながされた」（名取市 幼稚園）
 - 「大親友の分まで生きよう」（名取市 小5）
 - 「大好きだった海が嫌いになった」（名取市 中3）
 - 「ままのかおがみえたらないちゃいました」（名取市 保育園）
 - 「画用紙1枚で寝ました」（名取市 小4）
 - 「今まで見た中で一番キレイな星空」（名取市 高3）
 - 「NVER GIVE UP!」（名取市 高2）
 - 「世界中の人に恩返ししたい」（名取市 中3）
- 石巻市、女川町
 - 「たくさんの死体を見た」（石巻市 小6）
 - 「『助けて』『苦しい』とゆう声」（石巻市 小学生）
 - 「おとうさんにまけないせんしゅになりたい」（石巻市 小2）
 - 「屋根の上に車」（石巻市 小6）
 - 「くうきがきたない」（石巻市 小1）
 - 「お母さんにだきついた」（石巻市 小3）
 - 「食パン4分の1」（石巻市 小6）
 - 「だるさ・吐き気・変な感覚」（石巻市 小6）
 - 「自衛隊のシャワー」（石巻市 小5）
 - 「私ひとりでも県外で頑張る」（石巻市 中3）
 - 「人間は強い」（石巻市 中3）
 - 「頑張るぞ俺達家族!」（石巻市 高1）
- 南三陸町
 - 「何も無くなってしまったやあ」（南三陸町 中1）
 - 「おにぎり一個十分かけて食べた」（南三陸町 小6）
 - 「つよくてやさしい人になりたい」（南三陸町 小学生）
- 気仙沼市
 - 「わたしのたからばこは、どこにいったかな?」（気仙沼市 小1）
 - 「赤く燃え上がる炎と黒煙」（気仙沼市 中2）
 - 「川の水がぎゃく流」（気仙沼市 小4）
 - 「ペットボトルの湯たんぽ」（気仙沼市 中3）
 - 「唯一残ったのは、命」（気仙沼市 中2）
 - 「つなみってよくばりだな」（気仙沼市 小1）
- 釜石市、大槌町
 - 「お母さんをかみならず見つける」（大槌町 小5）
 - 「白い煙のような波」（釜石市 中1）
 - 「今は何がほしいのかわからない」（釜石市 小4）
 - 「夢だったらいいなー」（釜石市 小3）
 - 「バイバイ」（大槌町 中2）

開催名義

- 主催: 全労済ホール／スペース・ゼロ
- 共催: 3.11こども文庫
ふくしま支援・人と文化ネットワーク
- 後援: 徳間書店「ふくしまの子どもたちが描いた、あのとき、きょう、みらい」、
株式会社Too、アスラン書房、東京フロリネット株式会社、
相馬市立中村第二小学校の避難所児童と三年生
(担任教師、佐藤みゆき、安積 崇、西山弥生、浜須直文)、
相馬市立磯部小学校の避難所児童
- 協力アーティスト:
大谷工作室、宇野 学、中野まきこ、森吉 健
- 協力: 学校法人自由の森学園中学校・高等学校、
森健、文藝春秋『つなみ 被災地のこども80人の作文集』
絵本や画材を寄附して下さった全国、世界の皆様、
ボランティアで活動に参加して下さった方々
- 宣伝美術: サダヒロカズノリ
- 問い合わせ
全労済ホール／スペース・ゼロ 03-3375-8741
<http://www.spacezero.co.jp/>